



# いずみのひろば

2017年2月号  
日本基督教団 堺教会  
No.459 教会学校



## 「イエス様の力ある御業」

ヨハネによる福音書 一章 三八節〜四四節

イエス様が人々に伝道(神様ののみ国が来ることを伝える)をしてユダヤの多くの所に行かれました。

そして、ベタニヤ村にも何回も行かれました。

ベタニヤ村にはイエス様が愛しておられたマルタさん、マリアさん、ラザロさんのきょうだいがありました。

イエス様はベタニヤ村に來ると、この三人の家にお泊りになって食事をし、神様のお話をして下さいましたし、イエス様が多くの病気を治されたことも知っていたので、イエス様は救い主であると信じていました。

ある時ラザロさんが重い病気になるました。

イエス様に治して頂きたいと思い「ラザロが病気で苦しんでいます。」と知らせました。

しかし、イエス様はそれを聞いてもすぐにラザロさんの所に行かず、まだ四日間も伝道しておられました。

その間「ラザロさんは死んでしまっ、お墓におさめられました。

マルタさん、マリアさん、そばにいた人々も悲しんで泣いていた。

イエス様がベタニヤ村にやっと来られました。

マルタさんとマリアさんに会って、

「あなたの兄弟(ラザロ)は復活する。」

「私を信じる者は死んでも生きる。」と言われました。

その言葉を聞いても皆は泣いています。

それはイエス様が来られても、死んだらどうすることも出来ないと思っている涙です。それを見てイエス様は心に憤りを覚えて、お墓の石を取りのけさせました。

そして天を見上げて、「父よわたしの願いをいつも聞き入れて下さって感謝します。こう言うのは人々にわたしをお遣わしになったのは神である、信じさせるためである。」と言われ、「ラザロ、出てきなさい。」と大きな声で叫ばれました。

ラザロさんはお墓から出て来ました。

ラザロさんは生き返ったのです。

イエス様はラザロさんが死んでよみがえったことを通して、人々に神様ののみ力を信じるように導かれたのです。

力あるみ業を見て、人々はイエス様が神様ののみ子で、私たちを神様を信じる者へと、導いて下さったことがわかりました。

力あるみ業を行われるイエス様は、今も私たちを神様ののみ国へと導くために、ともに歩んで下さっています。

その導きを信じて、神様の子どもとして歩んで行きましょう。

(お話し) 宮庄 佳子先生

